



松山学院高校（松山市北久米町）の生徒が、学校そばの荒れた里山の再生に地域住民と取り組んでいる。手入れを続け、2021年の秋に植え付けたハナモモの花が今月、満開になった。生徒らは「もっと咲かせ、住民らに喜んでもらいたい」と夢を描く。

里山再生へ 高校生協力

松山学院高生 住民と草刈り・ハナモモ植樹

開花に喜び 今後とも活動

山は近くの花山正明さん(88)が所有。以前はかんきつを栽培していたが高齢を理由に10年やめ、ササや草が生え放題になっていた。松山学院高の生徒らと住民らで草刈りや植樹活動を行い、今年、ハナモモの花が満開になった。

同校の生徒とも協力を始めていた縁で、1年生約10人が放課後に1〜2時間、草刈り機や鎌を使い里山整備に参加。土曜や日曜も生徒有志が汗を流した。



少しづつ山肌が現れ、ハナモモの苗木を22、23年も植え付け。水やりや草引きは2年生になった生徒が引き続き担当し、昨秋からは1年生約20人も参加している。

枯れたり、うまく育たなかったりした苗木はあったものの、今月、1本のハナモモがピンク色の花をつけた。当初から携わってきた2年宮本蒼樹さん(17)は「苦勞したけれど、きれいに咲いて良かった」と笑顔。生徒らは継続して活動する方針で、花山さんは「今後が楽しみ。地域のみなさんに潤いを与えられる山になれば」と話している。

ハナモモの開花を喜ぶ花山さん(2列目左端)と松山学院高の生徒ら